

1. 授業者による振り返り

- 児童の実態と教材選定理由:
 - 4年生は優しく困っている人を助けられる学級だが、友達の目線を気にして自分の思いを溜め込みやすい傾向があるため、「本当の友達」について考えを深める教材として選定した。
- 指導の工夫:
 - 中心発問において「まさ子さんならきっと分かってくれる」という記述に着目させ、なぜ分かってくれるのかを深掘りすることで信頼関係を意識させた。
 - 良い友達の存在に気づかせるため、日常の姿を捉えた写真・動画を活用した。
- 成果と課題:
 - 導入時の感想（料金等への疑問）から中心課題へ焦点を絞った。
 - 「友達（まさ子）のために伝えたい」という相手本位の意見を引き出したかったが、「自分が損をするから」という自己本位の意見へ傾いてしまい、相手を思いやる視点の引き出しに課題が残った。

2. グループ協議の内容

A グループ

- ひろ子さんが伝えた理由について、「相手（まさ子）のことを思って伝えている」という側面に更にもう一步踏み込む問いかけがあれば、相手視点の発言が引き出せたのではないか。

B グループ

- 導入時の提示（大きな絵はがき等）や発問が、児童が真剣に自分ごととして考える良い土台となった。
- 「伝える／伝えない」の議論において、「伝えない」の理由にあった「相手が悲しむかも」という視点は相手の立場を考える意味で価値が高い。そこを切り口にすることで展開が深まった可能性がある。

C グループ

- 児童が積極的に挙手し、「～と同じ」「～と違って」と他者の意見と比較しながら発言する姿が見られた。
- 表面的な意見に対し、「まさ子にとっても本当にそれで良いの？」と相手視点を促す切り返しを入れても良かったのではないか。
- 今津北小学校では、授業の始めにめあてに対する今の考えを問い、授業の終わりにも同じ質問をすることで深まりを確かめるという実践を行っているので参考にしたい。

D グループ

- サークル対話において、体を相手に向けて聴き合う姿勢が定着しており、教師のファシリテートも自然であった。
- 金額や条件面に関する疑問が出た際、「なぜ大きい絵はがきなのか？それが友情の大きさでは？」といった友情の本質に迫る発問への工夫も考えられる。

3. 指導助言(小西課長補佐)

(1) 成果・評価点

- 児童が安心して自分の思いを語ることができる温かい学級風土および小中連携の雰囲気が築かれている。
- 児童の日常の振り返り（嫌な気持ちも次回から伝えたい等）に見られるよう、日常生活に生かされる道徳学習となっている。
- サークル対話における道具（小型ホワイトボード、ネームプレート）の工夫や、自然に座形を組む習慣が定着している。

(2) 授業改善への助言・視点

- **問いただし・切り返しの工夫:**
 - 児童の意見に対し「誰も教えてくれなかったらどうなる？」など全体に問いを広げて揺さぶる切り返しが効果的である。
- **「本当の友達」概念の深め方（相手依存から主体性へ）:**
 - 児童から出た意見（助けてくれる、分かってくれる等）は「相手が自分に何をしてくれるか」という相手依存の視点が多い。
 - 「相手に求めること」だけでなく、「自分から見てどうか」「友達から見て自分がどうあるべきか」という**自分側の姿勢・主体性**を問う返しを行うことが重要である。
- **変容の自覚化:**
 - 授業前後の自分の考えの変化（変容）を意識させることで、より深い「自分ごと」につながる。
- **サークル対話の質の向上（日常的な訓練）:**
 - サークル対話の途中で何度もペアトークを挟むと、サークル対話本来の意味が薄れる。
 - 道徳の時間だけでなく、朝の会や各教科等の日常で、身近なテーマ（好きな食べ物等）を用いて友達の意見から疑問を見つけ問い返す練習（3分程度の小グループ対話）を積み重ねることが不可欠である。

★サークル対話の日常的な訓練としてどんなテーマが考えられるかについても Gemini に案をもらいました★

1. 低学年 — 身近な体験と直感的な共有
 - **テーマ例:** 「好きな食べ物／好きな季節」「今朝うれしかったこと」「もし魔法がひとつ使えたら」
 - **ポイント:** 安心して自分の考えを言葉にでき、「一緒だね!」と相手の話に関心や親近感を持つ素地を育てます。
2. 中学年 — 理由（なぜ?）と共通点・相違点の発見
 - **テーマ例:** 「休み時間の一番楽しい過ごし方（とその理由）」「もし友達が忘れ物をしていたらどうする?」「インドア派?アウトドア派?」
 - **ポイント:** 単なる感想だけでなく「なぜそう思うのか」という理由を添えて話し、友達との違いや共通点に気づいて「なんで○○なの?」と問い返す練習につなげます。
3. 高学年 — 価値観の比較と自分自身の姿勢・行動
 - **テーマ例:** 「約束の時間と困っている友達、どちらを優先する?」「『優しい人』と『強い人』、自分はどちらを目指したい?」「学級を良くするために明日から自分ができること」
 - **ポイント:** ジレンマや抽象的な概念を含めることで、相手に求めるだけでなく「自分はどうあるべきか」という主体的な関わりや多角的な視点を引き出します。

★少しずつ学級で取り入れ、良いテーマや実践があればぜひ全体で共有していきましょう★